

公明、連立離脱へ



会談に臨む自民党の高市総裁(右)と公明党の斉藤代表=10日午後、国会

斉藤代表、自民に伝達

政治とカネ溝埋まらず

公明党は10日、自民党との連立枠組みからの離脱を決めた。高市早苗総裁選出を受けた連立協議を巡り、企業・団体献金の規制強化や派閥裏金事件の真相解明を求めたが、溝は埋まらず、自民の不信払拭に向けた努力が不十分と判断した。政策ごとの協力は継続し、選挙協力は人物本位とする方向だ。公明は1999年10月に自民、自由両党連立政権に参加。自公が下野していた時期を除き、22年以上の連立の歴史が幕を下ろす。

公明党の斉藤鉄夫代表は会見で、自民の高市総裁との会談を巡り「政治とカネに関する基本姿勢で意見の相違があった」と述べた。

公明が連立を離脱すれば自民単独内閣に転落する。高市新体制にとって打撃。政治状況がさらに不安定化するの避けられない。石破茂首相の後継を選ぶ臨時国会の召集も20日以降に遅れる公算が大きい。

神戸新聞

NEXT



詳しくはこちら